

Press Release

2007-09-10 No.07-13

曙ブレーキ、「ボーダフォン マクラーレン メルセデス」チームの オフィシャルサプライヤーに

曙ブレーキ工業株式会社(代表取締役社長:信元久隆 本店:東京都中央区 本社:埼玉県羽生市)は、モータースポーツ最高峰のフォーミュラーワン(F1)チームである「ボーダフォン マクラーレン メルセデス」のブレーキキャリパーとブレーキマスターシリンダーのオフィシャルサプライヤーとなりましたので、お知らせいたします。

当社はオフィシャルサプライヤーとなったことにより、2007年3月に活動拠点として「アケボノ アドバンスド エンジニアリング LTD(略称:AAE)」を英国ロンドン市に設立し、マクラーレン レーシング社と協同でブレーキキャリパーおよびマスターシリンダーの開発、実験、技術の向上を行っています。

今回、オフィシャルサプライヤーとなったことについて代表取締役社長の信元久隆のコメントは次の通りです。「ガソリンエンジンを搭載した、いわゆる自動車というものが初めて走ったのは、1886年ドイツでカール・ベンツが製作したものとされています。また、最初の自動車レース、グランプリと呼ばれるレースが行われたのは、1894年パリ・ルーアン間の130キロを走ったものだったそうです。それから約120年、世界中で日本の車を見かけずに行ける処などもはやないほどに、日本の自動車産業は発展をしました。

ブレーキと言うと、一般的にはクルマを「止める」「減速させる」モノと思われがちですが、本来ブレーキシステムとは、クルマを速く安全に走らせる、クルマをスムーズで安全にコントロールする、その為のクルマにとっては最も重要な部品の一つです。

私どもはかねてより、ブレーキのエキスパートを目指し、ブレーキシステムを開発する為には、その過酷な条件からモーターレーシングの場が最も適していると考え、色々なカテゴリーにチャレンジをしてきました。

このたび私どもは、究極のブレーキシステムを開発するには、究極のグランプリの場しかあり得ないと考え、この世界の名門であり、最も歴史のあるチームの一つである「ボーダフォン マクラーレン メルセデス」に今シーズンより私どものブレーキシステムを供給し、共同で開発をする事としました。

私どもは表彰台に上げられる様な製品を開発するには最短でも3年はかかると予想していました。しかしトップのチーム、トップのドライバー達に恵まれた事により、表彰台どころか、すでに優勝するまでの、予想以上の成果を上げています。日本製のブレーキシステム装着車が、グランプリで表彰台に上がるのは、120年の自動車産業の歴史上初めてです。ましてや優勝するのは初めてであり、これ以上の栄誉はありません。」

ボーダフォン マクラーレン メルセデスのフォーミュラーワン CEO であるマーティン・ウイットマーシュのコメントは次の通りです。「曙ブレーキとパートナーシップを結んだ事を大変誇りに思っています。ボーダフォン マクラーレン メルセデスの方針は世界トップの会社と技術提携し、最先端の技術をレーシングカーに搭載することです。曙ブレーキはその高度な技術によって高いパフォーマンスをすでに発揮し、今シーズンの7回の優勝に大きく貢献しました。今後、長期的に曙ブレーキと良い関係を保ち、さらなる技術開発に取り組むことを楽しみにしています。」

曙ブレーキ工業株式会社(東京証券取引所第一部:コード番号 7238)は、1929年の創業以来、一貫してブレーキおよびブレーキ用摩擦材の開発・生産・販売を行ってまいりました。現在は、自動車用から自動二輪車用、鉄道車両用、産業機械用などのブレーキ事業の他、自動車用を中心としたセンサー事業を展開しており、ブレーキ用摩擦材となるディスクブレーキパッドの自動車向けOEMでは国内シェア約40%、世界シェアでも約20%と高いシェアを有しています。

グループ全体での従業員数は7,000名近くにのぼります。

開発機能を、日本、アメリカ、フランスに持ち、生産拠点は日本、アメリカ、フランス、中国、タイ、インドネシアにあります。

2006年度(2007年3月期)には、売上高1,732億円と過去最高を更新いたしました。

詳しくは www.akebono-brake.com をご覧ください。

お問い合わせ先

曙ブレーキ工業株式会社

広報室 新井・細野・ニコルソン

Tel: 03-3668-5183

Fax: 03-5695-7391